東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１2年7月６

恵みに感謝すること

親愛なるムスリムの皆様！

親愛なるムスリムの皆様。この世界において無為に創造されたものは何もありません。あらゆるものには目的と英知があるのです。被造物の中で最も誉れある存在である人間にとっても、創造の目的・英知にしたがって、人間としてやるべきことを果たす必要があります。これらを最適な形で、最もシンプルな形で表現することは、アッラーの限りない恵みに感謝することによって可能となります。

アッラーはこのことについて次のように仰せられています。「またかれはあなたがたが求める、凡てのものを授けられる。仮令アッラーの恩恵を数えあげても、あなたがたはそれを数えられないであろう。」（イブラーヒーム章第34節）数えきれないほどのこの恩恵を受けている私たちは、ただ感謝すること、恵みを下さったお方に恩義を感じることによって、応えることができるのです。

感謝とは、対価を払うこと、行われたよいことを語ること、そしてそれを与えた存在を賞賛することです。道徳的な概念としての感謝は、行われたよいことの対価とその価値を知り、それがいかに価値のあることであるかを語り、それを行った存在を賞賛し、恩知らずとならないことを意味します。しもべがアッラーの恵みを語り、賞賛すれば、感謝したことになるのです。

ただ、忘れてはいけないことは、根本的な感謝とは、与えられた恵みを正しく用いることです。正しく用いられた恵みは、人から懲罰を遠ざけます。アッラーは次のように仰せられました。「もしあなたがたが感謝して信仰するならば、アッラーはどうしてあなたがたを処罰されようか。アッラーは嘉し深く知っておられる方である。」(婦人章 147 節)

預言者さまは、足が疲れるまで礼拝をされました。そして「アッラーはあなたの過去と将来の罪を全て許されるのに、どうしてこれほどご自分を疲れさせるのですか」と尋ねられると、「感謝するしもべであってはいけないかね？」と答えられたのでした。

アッラーは私たちを人間として創造されました。そして考え、理解するために理性を、見るために目を、聞くために耳を、ものを持つために目を、歩くために耳を与えられました。これらは一つずつが恵みではないでしょうか？これらを手にするためにその対価を支払った者がいるでしょうか？これらは皆、アッラーの私たちへの恵みではないでしょうか？そう、これら全てに対し、アッラーが私たちから求めておられる唯一のものは、しもべとしてなすべきことを果たすことです。これも、感謝によって可能となります。恵みの主を知ることによって、その存在を賞賛することによって、そのお方にイバーダを行うことによって可能となるのです。

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンは、皆が理解できる明白な恵みについて次のように言及しています。「あなたがたは、あなたがたが耕す（畑の）ことを考えたか。あなたがたがそれ（植物）を育てるのか、それともわれが育てるのか。もしわれが欲するならば、それを枯れた屑にしてしまう。あなたがたは驚愕して止まない。」（出来事章 63－65 節）「またあなたがたの飲む水に就いて考えたか。あなたがたが雲から（雨を）降らせるのか、それともわれが降らせるのか。われがもし欲するならば、それを塩辛くすることが出来る。あなたがたはどうして感謝しないのか。」（出来事章 68－70 節）「あなたがたは、灯火に就いて考えたか。その（燃やす）木を、あなたがたが創ったのか、それともわれが創ったのか。われはそれを教訓とし、また荒野の住民の便利のために創った。だから偉大であられるあなたの主の御名を讃えなさい。」（出来事章 71－74 節）

誰であれ、アッラーの恵みのうちどれかを本来の目的に即さない形で用いるなら、恩知らずな振る舞いをしたことになります。アッラーはイブラーヒーム章で「もしあなたがたが感謝するなら、われは必ずあなたがたに（対する恩恵を）増すであろう。だがもし恩恵を忘れるならば、わが懲罰は本当に厳しいものである。」(イブラーヒーム章 7 節)

これほど多くの恵みを受けている私たちがなすべきことは、感謝です。なされた感謝は、恵みをより豊かにする要因ともなります。感謝は言葉によって、財産によって、肉体によって、あるいは財産と肉体双方によってなされます。

親愛なるムスリムの皆様。感謝は恵みがより豊かなものとなる要因であり、反抗や恩知らずな態度はその恵みの消失の要因です。したがって、恵みがより豊かになること、あるいは減らされることは私たちの態度にむすびついているのです。態度や行為を、恵みがより豊かとなるような形であるようにしましょう。主よ！私たちがあなたに十分な感謝をすることができますように。十分な感謝ができるよう、私たちをお助けください。